内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2004年5月）

◎内海事務総局長から

エジプトは、スフィンクスとピラミッドの国との印象が強いですが、それは何千年も前の話。ムバラク大統領と親しくお会いする機会がありましたが、情報通信技術がエジプトの発展のためにいかに大事かを説明するのが私の役割だと思っていたら、大統領自らが、それを私に話され、私は相づちを打つだけ。もちろん大統領は昨年の世界情報社会サミットにも出席、エジプトは、情報社会に真っしぐらに突進しています。

そのカイロで10年ぶりでITUが開催したテレコムアフリカは、中国や韓国、インド、マレーシアなどのアジアの企業が盛大に参加し、大成功でした。10年前に、私も、郵政省（当時）を代表して参加しましたし、日本からはキャリアやメーカーが多数参加、その方と一緒にピラミッドを見学しました。今回は、日本からの参加は、留学中の学生さん1人だけでした。

◎5月の事務総局長の主な動向

5月4～8日　ITUテレコムアフリカ（ITU、カイロ（エジプト））

第6回となるITUテレコムアフリカをカイロ（エジプト）にて開催しました。

今回は“Access Africa”をテーマにして、44か国から260社が参加した展示会と、43名の大臣や多くのビジネスリーダーによるフォーラムを開催しました。オープニングでは、各国要人が参席するなかムバラク・エジプト大統領がリボンカットを行い、エジプト首相も出席するなど、エジプト政府の意気込みを強く感じました。昨年のWSISの準備段階を通じて“デジタル・デバイド”というテーマの下で開発途上国の将来性が期待されていることもあり、アフリカ諸国の中小企業も出展するなど活気あふれるものでした。また、欧州企業の参加は従来どおりですが、中国、韓国をはじめとしてイランやインドなどアジア地域の勢いも感じることができました。

ITUテレコムは、各国政府及び民間セクターが一緒になり電気通信産業を発展させることを目的としていて、ITUテレコムのイベント自体で利益を生むことは目的としていませんが、赤字を出さないことが求められています。今回は、昨年末以降から断行してきたITUテレコム事務局内の改革の成果が表れ、赤字にはならない見込みとなりました。

5月10～28日　ITU地域無線通信会議（RRC）（ITU、ジュネーブ）

欧州地域とアフリカ地域を対象にした地上デジタル放送（ラジオ＋TV）計画を策定する地域無線通信会議（RRC）を開催しました。RRCは、ITU憲章・条約に基づく会議で、例えれば、テーマと参加地域が限られたWRCということになります。

欧州及びアフリカ地域は各国が隣接していますし、また、対象となる周波数帯は、放送以外にも固定回線や航空機管制のための回線などがある周波数帯でもあります。このような条件のなかで、既存のアナログ放送に干渉を与えず順次デジタル放送を導入していくためのチャンネルプランをどうするか、アナログからデジタルに完全移行する期限をいつに設定するのかなど、各国の調整は難航しました。

最終的には解決に向けた方向が見え、2005年末または2006年に第2回のRRCを開催して、アナログからデジタルへの移行計画を最終化することとして、この第２回RRCまでに行う検討スケジュールを確定して今回のRRCは終了しました。

5月19日　サミット高級レベル組織委員会（HLSOC）（ITU、ジュネーブ）

各国連機関で構成されるHLSOCは、昨年のWSISの基本宣言及び行動計画を受けて、各国際機関がどのような活動を行っているのか、またWSISチュニジアフェーズに向けてどのような活動を行うのかを調整しています。今回、UNESCO（国連教育科学文化機関）から情報社会における多言語や表現の自由について、UNCTAD（国連貿易開発会議）とOECD（経済協力開発機構）から情報社会の経済的インパクトなど、2005年のWSISチュニジアフェーズに向けた活動予定が報告されました。これらの各国際機関での議論が、WSIS準備プロセスに入力され、WSISでのアウトプットの土台になっていくことと期待しています。

5月　ITU理事会準備（ジュネーブ）

6月9日から18日にかけてITU理事会が開催されます。今年は、予算案の承認がないものの、COG（理事会監視グループ）、GoS（ITU改革専門家グループ）、外部コンサルタントからITUの組織運営に対する勧告が議論されますし、ITUの会議における6か国語の平等な使用、WSISジュネーブフェーズの総括、WSISチュニジアフェーズに向けた取組、インターネットガバナンスへのITUの関与など多くの議論が予定されています。また、来年のITU理事会でプロジェクトをベースにしたITU予算を採択するためのITU財政規則などの議論も行われます。

この数年、ITUリフォームということで組織運営に関する議論が続けられ、今では詳細な事務運営問題まで理事会で取り上げられる傾向がありますが、今年は、昨年のWSISの成功を受けて、豊かな情報社会構築のためにITUは何をするべきなのかなど政策事項の議論が活発に行われることを期待しています。

“ナイル河畔の現代ピラミッド”　撮影：内海善雄